

金属スクラップ特化版開発

ワンライブの販管システム

レアメタル・非鉄スクラップ事業および金属リサイクル向けデジタルコンテンツの運営などを手掛けるONE LIVE（本社：兵庫県尼崎市、土肥高代表取締役、ワンライブ）は、金属スクラップに特化したクラウド型の販売・在庫管理システム「Metal Live Stock（メタライブストック）」を今夏にもリリースする。各種法施行に対応し、運転免許証にあるICチップの読み取り機能なども搭載。リサイクル業務の効率化とともに、商習慣の変化に伴うコンプライアンス体制の強化にも貢献する。

各種法施行に対応

金属リサイクル業において在庫管理の効率化は、事業の採算性の分りやすさや透明性に直結する。同社ではかねてより、レアメタルを中心とした金属リサイクル事業に取り組みながら、自社事業にとどまらない幅広い金属リサイクル事業者の業務効率化のためのクラウド型の販売・在庫管理システムを構築。

昨年には「メタライブストック」としてデモ版をプレリリースした。主な特徴は在庫の平均仕入れ単価や営業数字など見える化による業務効率化、ノウハウの共有化、原価や加工費用の案分やコストも見える加工業務の管理、ロケ記録での安心運用、安価なオンラインコストに手厚いサポートなど多岐にわたる。徹底的な現場目線を使いやすさを追求しており、商品名を選択し、検収重量を入力するだけで登録ができ、約1000種の業界専用商品マスターも搭載しているため、売り買い時の迅速な相場対応を可能にし、機会損失を防止できる。また近年の金属盗難の増加による金属盗対策（盗難特定金属製物品の処分の防止等に關する法律）や、マネーロンダリング防止機能の高まりを背景にし

策法（盗難特定金属製物品の処分の防止等に關する法律）や、マネーロンダリング防止機能の高まりを背景にした関連法の施行および強化による、スクラップの持ち込みなどにおける本人確認の厳格化の流れを受け、運転免許証のICチップを讀み込む機能を新たに実装した。土肥社長は、「資源循環が国家戦略に組み込まれる中、レアメタルなど重要鉱物を含む金属スクラップのトレーサビリティも今以上に求められることになるだろう。今後のヤード業務の許認可制導入も含め、市場や事業環境の変化に即応できるクラウド型サービスを通用し、金属リサイクル業界のさらなる発展に貢献していききたい」と方針を述べ、13日に東京で開催された「イクル工業会全国大会」でプレスによるPRも実施する。

伸銅品販売量1%増

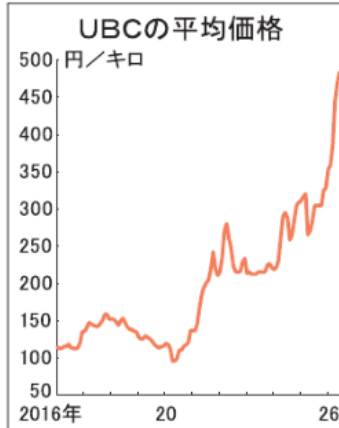
JX金属、4-9月見通し

JX金属は2026年度上期（26年4月-9月）の月平均伸銅品販売量を前年同期比1%増と見通す。前年からの生成AI普及によるデータセンタール向け需要の好調さが続くほか、堅調なスマートフォンの月平均伸銅品販売量を押し上げた。低価格帯スマホの一部需要がスマホの不足で伸び悩んでいるが、その影響も見られる。このため、足元の生産・加工ラインは国内外ともに忙しいう状態が続いており、一部拠点では残業対応などで高需要に応えている。

市中価格、一部で500円超

アルミ缶プレス（A）

アルミ缶プレス（A）の市中価格が一部キロ500円を初めて超えてきた。使用済みアルミ缶（UBC）処理能力の増強や、UBC加工処理工場の立ち上げなどで、複数の国内メーカーが従来以上にUBCの数量を求め、価格の引き合いも増している。一方、価格の上昇ペースが速いために、高値警戒感はくすぶる。ただ、CAN to CANの流れが加速する中では、需給面から価格が大きく下がる展開はなかなか見えない。足元で取引されている中心値は490-500円あたりとみられる。関係筋は「関西では国内メーカー向けに510円を提示する原料問屋もある」と指摘する。一方で、現状では460-470円あたりを超える高値になると採算割れに陥るため、高値を追いかけないメーカーもある。交渉中の7-9月のアルミ新地金対日プレミアム（割増金）が、4-6月期から上昇して決着したとしても「缶プレス（A）」の買値は高値480円が良いところではないか（二次合金メーカー）との見方のためだ。500円はスロ物の中でも、かなりの高値水準になる。他アルミスクラップに比べ歩留まりの低い缶プレス



（A）が500円を付けることに違和感を感じる業界関係者は少なくない。とはいえ、缶プレス（A）の引き合いは旺盛だ。原料問屋は「価格は後から調整するので、とにかくUBCを集めてほしい」とメーカーに言われている。一部の国内メーカーによる集荷競争に海外メーカーも参戦している。東南アジアなどからのUBC購入には船が遅延するリスクもあるため、遅延リスクのない日本からの調達が見直されているように

だ。別の関係筋は「別の関係筋は、UBCが少ない」と漏らす。缶プレス（A）格高騰を受け、屋は資金繰りに。別の原料問屋は「缶プレス（A）の買値は高値480円が良いところではないか」と話す。一部の国内メーカーによる集荷競争に海外メーカーも参戦している。東南アジアなどからのUBC購入には船が遅延するリスクもあるため、遅延リスクのない日本からの調達が見直されているように